

令和4年度（2022年度）宝塚市人権教育推進委員会（概要）

会議名	令和4年度（2022年度）第3回 宝塚市人権教育推進委員会
日時	令和4年（2022年）9月 12日（月）13：30～15：30
場所	宝塚市立中央公民館 208学習室
出席数	<input checked="" type="checkbox"/> 内田委員 <input type="checkbox"/> 北委員 <input checked="" type="checkbox"/> 平山委員 <input checked="" type="checkbox"/> 後藤委員 <input type="checkbox"/> 岩室委員 <input checked="" type="checkbox"/> 谷添委員 <input checked="" type="checkbox"/> 奥委員 <input checked="" type="checkbox"/> 藤井委員 <input checked="" type="checkbox"/> 菅委員 <input checked="" type="checkbox"/> 和久委員 <input checked="" type="checkbox"/> 加藤委員 <input type="checkbox"/> 石井委員 <input checked="" type="checkbox"/> 岩崎委員 <input checked="" type="checkbox"/> 山下委員 <input checked="" type="checkbox"/> 山本委員 （<input checked="" type="checkbox"/>出席/<input type="checkbox"/>欠席）
傍聴者	0名

- 1 配布資料の確認
- 2 委員長あいさつ
- 3 会議の成立報告（15人中12人出席）
- 4 人権施設の視察について
- 5 ブロック研について
- 6 教職員の人権意識調査に向けて

事務局：まず本日の資料を確認いたします。（資料の確認）

事務局：開会の挨拶を和久委員長にお願いします。

委員長：本日は早速ですが、進めていきたいと思います。まず、本日の傍聴者はいらっしゃいますか。

事務局：傍聴者の方は0になっています。

委員長：まず、視察ですが事務局から説明をお願いします。

事務局：10月12日水曜日で予定をしていましたが、市のマイクロバスが使用できないということで、10月4日火曜日でいかがでしょうか？

委員長：10月4日に実施するというので計画をお願いしたいと思います。

事務局：では、10月4日に実施するというので計画していきたいと思います。

委員長：続いてはブロック研です。事務局から説明をお願いします。

事務局：みなさまの参加につきまして、一覧表を作成しましたが、記入漏れ、追加等ありましたら、申し出て下さい。

委員長：ブロック研の参加にあたっては、コロナ禍でもあるので、大勢での参加は避けて下さい。また、教室に入れる場合は、教室に入って授業を見て下さい。その後の分科会は自分の好きな所に参加して、席は後方に作ってもらって下さい。また、発言については、その時の雰囲気を見て、自分で判断して下さい。終わったら自由に帰って下さい。この5～6年推進委員も参加しているので大丈夫だと思います。遠慮せずにご参加下さい。

委員長：続いて意識調査についてですが、前もって事務局から資料が配られていると思います。今から項目ごとにきちっと見ていくのですが、文言はかなり精選されていると思います。京都の物を基にして作っているのですが、それを宝塚版に変えないといけない部分があります。その作業が中心になってくると思います。まずは問7まで見ていきましょう。

委員：問3の年齢層ですが、宝塚市で取られる調査の場合、20代、30代、40代と、このような分け方をしていますか？あるいは京都がこのような分け方をしていますか？

事務局：京都がこのような分け方をしています。

委員：宝塚市もこれまでの意識調査の年齢層の分け方に合わせた方が良いのではないですか？

委員長：ひとつずつ順番に見ていきましょう。問1は校種です。問2は職種です。

委員長：栄養教諭はありますか？

委員：栄養教諭は、いる学校といない学校があります。

委員長：常勤講師はどうですか？

事務局：基本的に月曜日から金曜日までフルで来て、担任を持ったり、授業を行ったりする人と考えてもらおうと良いです。

委員長：非常勤講師は調査の対象にしませんか？

事務局：他府県もそこまでの集約はしていません。

委員：元々が常勤の先生を対象にしていますと最初に説明を入れれば良いと思います。

委員長：アンケートを取るのは、フルタイムで働いている人だけということですね。

委員長：次に問3の年齢層です。京都に合わせていますが。

事務局：平成29年に宝塚市で行った市民意識調査では、20歳～29歳、30歳～39歳、40歳～49歳というように記載されています。

委員：若い先生が、特に人権意識が乏しいと言われているわけですから、25歳くらいのところで一回切っても良いのではないかと思います。

委員：調査する時は5歳刻みで取っておいて、10歳刻みで集計することはできます。一度10歳刻みで取ってしまうと、それを分けることはできないので、5歳刻みで取っておいて、状況を見て5歳刻みで分析するか10歳刻みで分析するか決めれば良いと思います。

事務局：20代はどう分けるのが良いですか？

委員：24歳以下、あとは25歳～29歳で良いと思います。

委員長：5歳刻みで取る。あとは9の数字で切って、0からスタートするという事にしましょう。

委員長：次は問4の人権教育の担当経験ですが、宝塚の先生がこれで迷うか、迷わないかですね。たとえば白書担当とかブロック研担当とか校内研で人権の研修を担当する人はこれに入ります。

委員：これは先生の中ではちょっとわかりにくいと思います。自分は担当者なのかという質問が返ってくるかなと思います。

事務局：京都もそうですけど、クロス集計した時に、人権教育の経験が「ある」、「ない」、で比較すると、「部落差別解消推進法のことを知っていますか」といったような問いのところでやっぱり差が出ています。クロスをする時に必要かなと思います。これを完全に無くしてしまうのは難しいのかなと思います。

委員：問4と問5を分けた理由はありますか？

事務局：京都の問5みたいにひとくくりにしていいのか。うまく説明できませんが、今回は分ける方が良いのではと思います。

委員：アンケートに答える人たちが迷わないようにしてほしいと思います。どっちかなと思っても数字は数字で出てくるので、その数字を基に今後どうしていくかということが最終的に重要な目的です。答える現場の先生がこれはどっちかな？というのは最小限にしていくよう検討しないといけません。

委員長：問5ですが、加配の先生はみんな自分が加配であることを知っています。だから問5は残しましょう。問4はあいまいです。ここは注釈をいれましょう。白書担当やブロック研担当など、だいたい小学校なら6名、中学校なら3名です。問5は学校の先生なら答えられますが、問4は注釈をつけましょう。

委員：問4は選べるようにしていただくと良いと思います。その役割というのは全部網羅的に書かれていて、担当されたもの全てに○をしてくださいとすれば、もれ落ちることがなく間違いのないと思います。

委員長：問4はもれが起こらないように、迷わないように。ブロック研担当とか、白書担当とか、人権の校内研担当とか、そんなに多くないと思います。

委員：校務分掌に載せているものを基本にすれば分かりやすいと思います。

委員長：では問4については変更してもらいます。

委員長：問6の「人権研修の参加経験」は、これでい겠습니까。京都に合わせて、比較もできます。問7の「差別に対する考え方」はどうでしょうか。京都に合わせてこれでい겠습니까。

委員：問7の(カ)「子どもから同性のパートナーを紹介されたが、親として付き合うことに反対した」この文章はもう少し考えた方が良いでしょう。中身がいろいろなふうに解釈されますから。ちょっと問題です。受け取る人の解釈によって回答が変わってきます。

委員：「紹介された」というのが、回答者本人にかかっているのか、親にかかっているのか。微妙な文言になっています。「もし自分が親だったら」というように読めなくもありません。解釈が分かれてしまうのであまり良くないです。こういう事実があることに対して、それは差別と思うか、思わないかということですけど、「親として」という部分が、聞かれている人に問うているような感じがしませんか。「あなたが親だった場合」という質問ではないですね。

事務局：「あなたが親と仮定して」ということではありません。

委員：「子どもから同性のパートナーを紹介された親が、付き合うことに反対した」でいいのではないかと思います。

委員長：それでいいですね。自分が親として考えるのではなく、客観的事実が例としてあがっていて、それを自分が判断するということです。文言を変えて下さい。問8です。加筆があります。

委員：この外国人というのは、在住あるいは在日の外国人で、外国人一般のことではないですね。

事務局：山本委員が言われた在日とつけると、しっくりくると思います。いま日本に住まわっていて、仕事をして長期にいらっしゃる方と判断されると思います。

委員：文章を読むと、日本に住んでいる人の話だと思います。観光に来た外国人ではないですね。質問は、日本で働いている人の話だから観光客ではない。だからこのままでもいいかもしれませんね。

委員：在日となると在日韓国・朝鮮の方を考えて、そこに限定されると思う人が多いのではないかと思います。

委員：言うとなれば「日本にお住いの」ということなのかなと思います。

委員長：(カ)と(キ)は「日本に住んでいる」を外国人の前に入れることにします。次に(サ)「同性婚を認めないのはおかしい。同性婚は認めるべきだ」は宝塚版で追加が入っています。

委員：オリジナルの項目ですね。強い言い方ですね。決意表明みたいな感じがします。

委員長：一文にしましょう。

委員：最後の「同性婚は認めるべきだ」だけにすれば良いと思います。「おかしい」という表現は、人によっては文章にするのは、おかしいと思う人もいます。「同性婚は認めるべきだ」の方がわかりやすいと思います。

委員長：「同性婚は認めるべきだ」にしておきましょう。また後日変更があるかもしれません。問9にいきます。これも加筆があります。(ス)と(セ)です。

事務局：この2つはとりあえず入れておいて、他は次回もう一度提案させていただきます。

委員長：問10です。よろしいでしょうか？

(特に意見なし)

委員長：次は問11です。1つ選びます。

委員：問の順番ですが「同和問題を除く」という質問が2つ続いています。読み進めば後から同和問題が出てくるのですが、問13、問14を先に持ってきてよいのではないかと思います。宝塚市は特に同和問題について考えさせたいので先に持ってくるのはどうでしょうか。

委員長：問13、問14を問11、問12の前に持ってきますか。あるいはこのままいきますか。

事務局：問11、問12と問13、問14はセットになっているので、問13、問14を前に持ってきて、

問11、問12の「同和問題除く」を消してしまえば、問13、問14は同和問題に関することを、ピンポイントで聞いていることになります。また、問11、問12は一般的な差別や人権についての質問になるので、同和問題も必然的に含まれることになります。

委員：もちろん当事者の声として、同和問題は重要ですから、強調していくのは当然のことと思います。この表現と並びはどうかと思います。

委員：今言われていたようにひっくり返してしまえば、スムーズに解決できると思います。

委員長：私もこれを読んだ時にひっかかりました。学校の先生は部落問題が本当に大切なことはわかっています。同和問題を含んで書かせるだけでいいのか、考えないといけない。

委員：同和問題と他の人権問題を分けた状態での答えが欲しいですね。同和問題がすごく大切と思っているのであれば、同和問題の質問を先にもってきたらスムーズに行くのかなと思います。分けることによって出てくる答えが大切で、混ぜ込んでしまうとデータを何のために取っているのかなと思います。先生が人権の何をどこまで理解しているのかを知るためには、細分化質問があるのかなと思います。

委員：問13から問15がセットで問11から問12がセットになっているので、それを入れ替えるという提案で良いのではないかと思います。

事務局：問13、問14、問15を問11、問12、問13にして問11が問14、問12が問15になれば違和感がないですね。

委員：同和問題という言い方はどうなのでしょう。

事務局：同和問題は行政用語になるので、先生たちは分かるとは思いますが、部落差別問題と聞く方が良いかと思います。

委員：国は部落差別（同和問題）です。法律が強いので、部落差別解消推進法になっている。ただ同和問題という言葉は今まで使っていたので、カッコをつけて同和問題を残しています。

事務局：同和問題と出てくるところは部落差別（同和問題）に修正します。

委員長：今日は問15までで終わりたいと思います。気づいたことがあれば次回に振り返りをして下さい。次回は問16から始めたいと思います。

事務局：第5回の推進委員会の予定ですが、10月4日に第4回が行われれば、11月17日、木曜日の午前9時半でお願いします。10月4日に第4回ができない場合は再度調整をいたします。

委員長：みなさんから何かありませんか。（特になし） それではこれで閉会といたします。

次回の推進委員会 令和4年（2022年）10月4日（火）9：40～